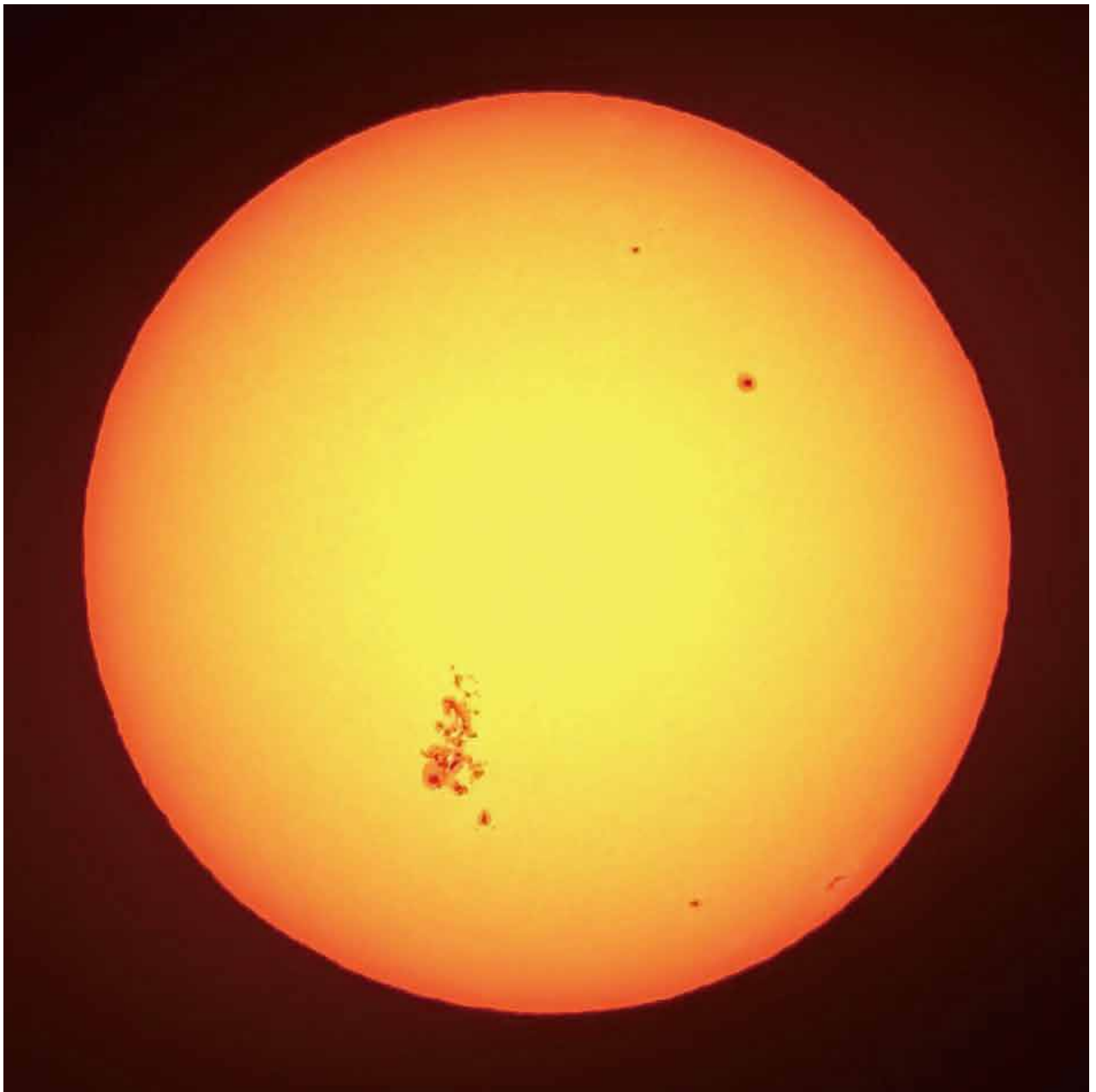




- ・天文食三昧
- ・ときあかせ！辰鼓楼 機械時計の謎



巨大な黒点が登場！2024年5月9日14時30分(Seestar S50・電子望遠鏡にて撮影)

「ときあかせ！辰鼓楼 機械時計の謎」

しんころう



どこで、だれが
製作した？
1881年(明治14年)製

初号機

なぜ、明石で
作られた？
1953年(昭和28年)製

2号機

兵庫県の北部、豊岡市には出石という町があります。出石そばで知られ、但馬の小京都とよばれる美しい観光地です。出石のまちの象徴は、辰鼓楼(しんころう)という古い時計台です。

辰鼓楼は1871(明治4)年4月14日、出石藩と地元の名士らが建造しました。当初は楼閣に据え付けた太鼓をたたいて時を知らせましたが、1881年に地元のお医者さんが寄贈した機械式大時計が設置されました。機械部分はその後変遷があり、現在は4代目の大時計が時を刻んでいます。北海道の有名な観光スポットである札幌市時計台とほぼ同時代で、国内でも最古級の時計台のひとつです。

気になるのはどちらが古いか？ということですが、辰鼓楼の地元のNPO法人「但馬國出石観光協会」が2021年、稼働開始日を調べたところ、札幌市時計台が27日早かったことが分かったそうです。この結果は地元にとっては少し残念なものでしたが、正直に発表したところ、好感をよび、出石の時計台・辰鼓楼は、より注目を浴びる人気のスポットとなりました。

ところで札幌の時計台の機械部分は米国製ですが、辰鼓楼の時計の機械部分は、どこで作られたのかよくわかっていません。オランダ製と記述した文献もありますが、導入時の記録が少なく、国内で作ったのか海外のものを輸入したのかよくわかっていません。初代の時計の機構部分は現存しているものの、多くの部品が失われており、残っているのは枠組みと一部の部品のみです。

そこで、観光協会の方々は、出石の時計の初号機が国産なのか海外製なのかを調べるため、兵庫県立大学に調査を依頼しました。本件を担当されることになったのは、大学院工学研究科の永瀬丈嗣教授です。永瀬先生は材料工学の専門家です。

当初、初号機の金属成分を分析する方針でしたが、一部を削り取らねばならず、初号機の損傷を避けるため文献や資料による調査を優先させることになりました。その過程で、兵庫県立大の永瀬先生から、当館に調査協力の相談が来ました。非常に興味深いテーマですので、喜んで調査に関わることになりました。

調査について、面白いことも教えてもらいました。初号機の次に設置された2号機も保管されていました。2号機は、昭和28年に製作され、機械部分がほぼ完全な状態で残っています。2号機を分析すれば初号機のヒントになるかもしれません。2号機の時計機械部分には、製造元と考えられる明石市の所在地名が記されていました。明石市内で、出石の時計の機械部分が作られていたということは、ほとんど知られていない事実でした。私たちも知りませんでした。地元の時計屋さんや大先輩学芸員などに聞いても、みな初めて聞く話とのこと。

当館は昭和35年に開館しましたが、時計製造はその前の話です。当館にもこの件に関する資料はみあたりません。ニュースを見た方から情報が寄せられており、確かに実際に作られた方がいらっしまったのは間違いのないと思われまます。明石と出石が結びつき、その謎はととも面白くワクワクしています。

こうした調査協力の一環として、この度、「ときあかせ！辰鼓楼 機械時計の謎」という特別展を当館でおこない、この調査プロジェクトを紹介することになりました。(当初予定していた「機械式時計の世界」はタイトルと内容を少し変更することになりました)関係各位の格別のご協力により、展示の目玉として、なんと「初号機」と「2号機」実物を当館で特別公開し、みなさんに見てもらえることになりました。

初号機と2号機は、出石から兵庫県立大学に移動、保管されています。過日、井上館長が訪問し、機構部分の状態などを確認しました。この貴重な資料を5月31日に当館に運び込み、6月8日～7月15日の間展示をおこなうことになりました。

この面白いプロジェクトが広く知られ、情報が集まってくることを期待しています。出石の時計のなぞを、ときのまち明石で、「ときあかし」で、プロジェクトのお手伝いできればと考えています。どうぞ期待！

特別展

「ときあかせ！辰鼓楼 機械時計の謎」

2024年6月8日(土)～7月15日(月・祝)

会場：明石市立天文科学館
・3階特別展示室

兵庫出石・辰鼓楼機械時計科学調査プロジェクトのページ <https://shinkoro-pj.net/>



シゴセンジャー & ブラック星博士 19年のあゆみ

2005年にキッズプラネタリウムでデビューをして以来、様々なグッズがつけられたり、市内外のイベントに参加したりと大活躍のシゴセンジャーたち。近年は、CGデザイナー岡本晃氏がデザインした天文科学館変形ロボット「シゴセンオー」や「ジャンボブラック星博士ロボβ」たちも活躍しているぞ。

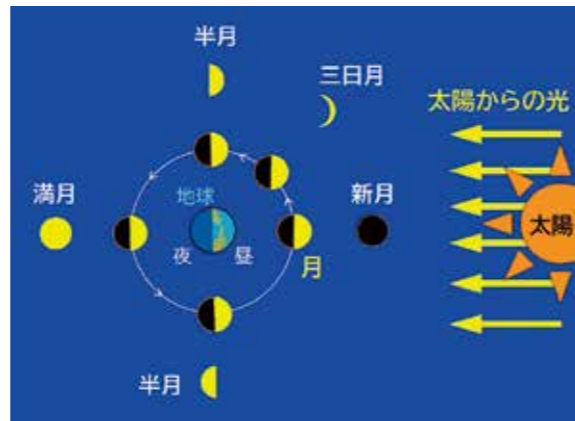
2024年はシゴセンジャー19周年 ～「メトン周期」ってなあに？～



2005年のゴールデンウィークのキッズプラネタリウムにはじめて登場したシゴセンジャーは、2024年に19周年を迎えたぞ。「19ってなんだか中途半端だな～」と思った人がいるかもしれないけれど、19年ごとに同じ月日に同じ月齢になることから、19年周期は「メトン周期」といって、天文学的にはとても重要な周期なんだ。

Q 月齢ってなあに？

A 月は、三日月や半月、満月など、いろいろな形に見えるよね。月の形が変わって見えるのは、月が地球のまわりをまわりながら、太陽の光のあたり方が変わるからだ。地球から見て、太陽と月が同じ方向になったときを新月といい、月齢は、新月から何日たったかを表す数字なんだ。



新月から、次の新月までを「さくぼうげつ」1朔望月というぞ。1朔望月は、29.5306日(29日と12時間44分)だ。



シゴセンジャーレッド

Q 19年ごとに月日と月齢が同じになるのはなぜ？

A 私たちが使ってるカレンダーは太陽の動きをもとにしたもので、1年の日数をより正確にみると365.242194日なんだ。これを朔望月とくらべてみると、19年の日数と235朔望月の日数が、ほぼ同じになるぞ。つまり、ある年と19年後の同じ月日を比べると、月齢がほぼ同じになるんだ。例えば、2005年4月29日の月齢は20.3で、2024年4月29日の月齢は20.4だぞ。

	1年	2年	...	18年	19年
日数	365.242194日	730.484388日	...	6574.359492日	6939.601686日

	1朔望月	2朔望月	...	234朔望月	235朔望月
日数	29.530589日	59.061178日	...	6910.157826日	6939.688415日

19年の周期は、紀元前433年にギリシャの数学者メトンが発見したことから、メトン周期と呼ばれているぞ。

19年の月日をかぞえていたら眠たくなって目がトロン



ブラック星博士



シゴセンジャーブルー

2005年

4月29日

2005年ゴールデンウィークに開催されたイベント「WAKUWAKUフェスタ」のキッズプラネタリウムに初登場!



2006年

6月11日

時のウィーク・メインデーに出演(明石公園デビューを果たす!)

12月4日

名古屋市科学館で開催された「全国プラネタリウム大会・名古屋2006」に登場! プラネタリウム業界への認知度が上昇する

2009年

1月4日

ぐんま天文台で開催された世界天文年2009オープニングセレモニーに登場! 12月6日には神戸市で開催されたグランドフィナーレにも登場

6月21日

全国プラネタリウム大会・明石2009・プレイベント「全国天文キャラクターシンポジウム」に全国から13の天文キャラクターが集結



2012年

8月13日

イベント「納涼フェスティバル」でシゴセンジャーピンクとイエローがデビュー。2013年7月にはシゴセンジャーグリーンとブラック星博士の子分が、2014年5月にはシゴセンジャーキッズがデビュー



2013年

4月27日

シゴセンジャーファンクラブ結成

2014年

4月5日

「月刊『星ナビ』5月号」より、連載「ブラック星博士のB級天文学研究室」がスタート

2015年

5月9日

デビュー10周年記念イベント「10年間ありがとう。そして、これからも頑張っていきまShow!」開催(会場:生涯学習センター・子午線ホール)



2018年

1月6日

いぬ年の冬場所のキッズプラネタリウムに、犬のキャラクター「しごまる」が初登場



2019年

1月12日

冬場所のキッズプラネタリウム「軌道星隊シゴセンジャー」に「シゴセンオー」が初登場

11月2日

秋場所のキッズプラネタリウムに「ジャンボブラック星博士ロボβ」が初登場



2021年

6月10日

シゴセンオーが、あかし時のまち大使に就任

7月3日

日本標準時制定135周年記念に天文科学館×山陽電車のコラボ電車「シゴセンオー」運行(~9.30)。7月2日には、シゴセンオーが山陽電車「人丸前駅」の名誉駅長に就任



2022年

5月28日

天文科学館×山陽電車のコラボ電車「シゴセンオー」を運行(~6.30)



2024年

軌道星隊シゴセンジャー & ブラック星博士、デビュー19周年!



「宇宙の日」記念 作文絵画コンテスト

2月18日(日)

プラネタリウムドームで、「宇宙の日」記念作文絵画コンテストの表彰式を行いました。このコンテストは、9月12日の「宇宙の日」にちなんで開催されているもので、今回の作品テーマは「月、火星、その先へ…自分の惑星探査計画」でした。天文科学館には合計81点の力作が寄せられ、その中から16作品が入賞作品として選ばれました。表彰式には15名の入賞者が出席、井上館長より表彰状と副賞を手渡すと同時に、入賞作品をプラネタリウムのスクリーンに映し出して紹介しました。



なお、絵画・中学生の部の友金さんの作品は、全国各科学館の最優秀作品が集まった中からグランプリに、絵画・小学生の部の杉山さんの作品は、同じく宇宙航空研究開発機構理事長賞に選ばれました。

夕焼けパンダ見てみ隊

3月1日(金)

「夕焼けパンダ」とは、明石市樽屋町にあるアンテナと、天文科学館から見える夕日(太陽)が重なってパンダの顔に見える現象です。一年のうち天文科学館から見られるのは3月1日と10月12日ごろの年2回のみです。「夕焼けパンダ見てみ隊」を募集し、245名の応募がありました。抽選で選ばれた16名の方と14階展望室で観測をしました。今回は天候に恵まれ、7年ぶりの「完全形」を見ることができ、展望室は、大きな歓声に包まれました。また、オンラインによる生中継には、夕焼けパンダの仮装をした館長や丸谷明石市長が登場し、大いに盛り上がりま



星と音楽のプラネタリウム

3月9日(土)

「星と音楽のプラネタリウム」は、素敵なお星の音楽とプラネタリウムの星空をお楽しみいただく特別投影です。

今回は春の星座を中心に空を見上げつつ、望遠鏡などを使って観望する星雲や星団、そして遠くの銀河に思いを馳せ、宇宙の果てを見に行きました。ご出演いただいたのは、Lianのお2人です。ゆったりした優しい曲調のピアノと歌の演奏によって、プラネタリウムは癒しの空間となりました。



あわじグリーン館コラボイベント「新月の星空観察会」

3月9日(土)

淡路島にある植物園「あわじグリーン館」と、コラボイベントを開催しました。

イベントの前半では、特別展「蘭展」を中心に植物園を鑑賞しました。普段は入れない夜の植物園を、ムッシュ・フルーリー(石田前兵庫県立フラワーセンター園長)の解説を聞きつつ巡り、植物の世界の面白さを堪能しました。

後半では、芝生広場に望遠鏡を並べ、冬の星を楽しみました。空は快晴で星が明るく見え、参加された皆さんは冬の大三角や冬のダイヤモンドを探したり、望遠鏡でオリオン星雲やすばるを眺めたりと、新月の星空を満喫されていました。



移動式プラネタリウムがやってくる

3月26日(火)

イオン明石ショッピングセンターとのコラボイベントで、「移動式プラネタリウム」を開催しました。JR大久保駅前のイオン明石ショッピングセンター1階の催事スペースに直径6mのドームを膨らまし、事前申し込まれた方を中心に、星空をご案内しました。午前11時から午後3時30分まで、30分間の投影を5回行いましたが、どの回もたくさんの方がご入場になり、北斗七星やしし座などの明石で見られる当日の星空や、南半球の星空をご覧いただきました。膨らんだドームの前での記念撮影や、ドーム内での満天の星など、イオン明石での買い物やお食事とともに、星空をお楽しみいただく、楽しい時間となりました。



第2回シゴセンジャーファンクラブイベント

3月30日(土)

軌道星隊シゴセンジャーレッドとブルー、そしてブラック星博士が登場するファンクラブのための特別イベントに、120名の会員が集まりました。イベントは、キッズプラネタリウム「軌道星隊シゴセンジャー〜ファンクラブ特別版〜」と題して、シゴセンジャーブルーによる星空解説の他、シゴセンオーやジャンボブラック星博士ロボβも登場して(映像)、2023年度の各場所で出題されたクイズに挑戦してもらったり、思い出のスライドショーもあつたりで、とても盛り上がりました。最後は、1階出口で、レッドとブルー、ブラック星博士が参加者を見送りました。

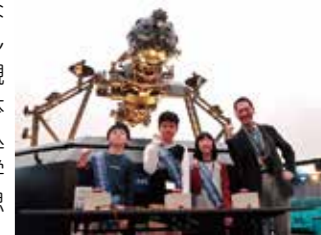
なお、2024年度のファンクラブ会員を現在募集中です!



令和6年度 一日館長

4月20日(土)、27日(土)

科学技術週間に合わせ実施している「一日館長」。今年度は2日間に分け、9名の応募者全員に一日館長を体験していただきました。お客様のお出迎えやポスター配布、館内放送など、緊張しつつも立派に一日館長としての仕事を行いました。16階天体観望室では、普段公開されていない天体望遠鏡をドキドキしながらのぞき込む姿が。これを機会に、より天文科学館を身近に感じていただければと思います。



太陽観測会

5月4日(土・祝)、5日(日・祝)

毎月恒例の昼の太陽観測会。今回は大型連休中ということもあり、多くのお客様で賑わいました。天体望遠鏡と太陽投影板を用いた黒点の観測や、Hα線という太陽から出ている赤い光を直接見ることができる望遠鏡を用いた観測を行いました。

お天気にも恵まれ、投影板にはくっきりと映し出された黒点が。また、天ボラさんの解説を受けながらHα望遠鏡を覗き込んだ子どもたちからは「見えた!」という嬉しそうな声が聞こえてきました。



「星空のレシピ」に広告を掲載希望の業者の方は、明石市立天文科学館までご連絡ください。※内容によっては、掲載できない場合もあります。



明石市立天文科学館ボランティア「天ボラ」募集

時や宇宙を学び楽しむことのできる展示室や、キッズルーム、天体観望会を舞台に、ボランティア活動してみませんか。

- ◎ 天ボラに参加できるのは16歳以上(高校生以上)です。 ◎ 活動日は、土日祝および長期休暇、繁忙期です。
- ◎ 天ボラで活動するためには、星の友の会に入会していただく必要があります。
- ◎ 天文科学館が実施する研修会を受講していただく必要があります。
- ※ 研修会には、基礎研修・実践研修・天体観望会グループ研修(いずれも1日ずつ)があります。

ボランティアってどんなことするの?

- 展示解説グループ: 3階展示室で「太陽系儀」や「月の満ち欠け」の展示を中心に展示解説をおこないます。
- キッズルームグループ: 4階キッズルームで、絵本の読みきかせなど、子ども達が楽しく遊べるようにお話をします。
- 天体観望会グループ: 観測室の一般公開や天体観望会で、望遠鏡の操作や説明をします。

★2024年度研修会(秋)の日程 (研修申込詳細は後日公開します)

- 基礎研修 ▶ 2024年9月14日(土)~10月4日(金) オンライン(YouTube限定配信)で配信
 - 実践研修 ▶ 2024年10月5日(土) 10:00~16:30 会場:天文科学館
 - 天体観望会グループ研修 ▶ 2024年10月19日(土) 15:00~20:30 会場:天文科学館
- ※詳しくは、天文科学館ホームページをご覧ください。

〈広告〉

館長エッセイ

館長ブログをはじめました。日頃、天文科学館ではいろんな楽しい出来事がおこっていて、その雰囲気をお伝えしたいと考えたからです。さっそく、良い話題がありました。4月に一日館長イベントが開催されました。この行事は、例年、4月の科学技術週間にあわせて行っています。対象は明石市内の小学6年生です。希望者には「ここがおすすめ天文科学館」という作文を提出してもらいました。みんなよく天文科学館に遊びに来ていて、ポイントをしっかり押さえた素晴らしい内容の作文が届きました。

ちょっと気になるのは「館長のダジャレ」というフレーズがあちこちに見られること。どうも、天文科学館=ダジャレというイメージが生まれつつあるようです。館内放送体験でも、素敵なアナウンスに交じって「太陽のことを知りタイヨウ」「月の話につきあってください」、などダジャレがしれっと入り込み…

はい、実に頼もしいですね! その調子で未来の天文科学館を担う人材はすくすく育っています。ご参加いただいたみなさん。ありがとうございます! 館長ブログはホームページから見る事ができます。子どもたちの作文も紹介しました。ぜひご覧ください。

館長 井上毅



QRコード

プラネタリウム一般投影 解説員が、その日の夜に見える星空と、期間ごとのテーマにそったお話をわかりやすく紹介します。

●夏の星雲・星団めぐり

7月2日(火)~7月31日(水)

夜空には、ボンヤリと見える天体があります。これらは、星の集まりである星団やガスやチリの集まりである星雲です。天体望遠鏡で観察すると楽しい、夏の夜空にある美しい星雲・星団をご紹介します。



M13 球状星団

●太陽系グランドツアー

8月1日(木)~8月31日(土)

太陽系は今から約46億年前に誕生しました。太陽系には、明るく光り輝く太陽の他、太陽の周りをまわる8個の惑星や衛星、小惑星、彗星、太陽系外縁天体など、多くの天体があります。8月のプラネタリウムでは、地球を飛び出し、太陽系をめぐります。



©NASA

●源氏物語と月

9月1日(日)~9月29日(日)

源氏物語は、平安時代に紫式部によって書かれた全五十四帖からなる長編小説です。第13帖の舞台は明石です。都からやってきた光源氏は、明石の上という女性と出会います。源氏物語には多くの和歌が登場します。夜空に浮かぶ月は、秋の季語です。秋の月は一年の中で最も美しいとされ、十五夜にはお月見をします。源氏物語にも、月の宴という行事が登場します。源氏物語と、秋の月についてお話しします。

源氏物語と、秋の月についてお話しします。



中秋の名月(2023年)

キッズプラネタリウム 幼児や小学校低学年を対象とした子どもむけプラネタリウムです。毎週土曜・日曜・祝日と学校長期休業中(7/20~9/1)の第2回目と第4回目の投影に実施します。

●たなばたアワー

6月1日(土)~7月7日(日)

平日 9時50分~11時10分
土日 11時10分~14時30分

たなばたの物語や、夏の星座、宇宙のお話をわかりやすくお話しします。



* 平日は団体予約がある場合のみ投影がありません。

●ほしぞらかんさつをしよう

7月13日(土)~9月1日(日)

夏の星空は見どころがいっぱい! みんなで見上げてみましょう。



天の川

* 7月13日(土)~15日(月・祝)の11:10~は「軌道星隊シゴセンジャー(事前申込制)」のキッズプラネタリウムになります。

●おつきみアワー

9月3日(火)~10月31日(木)

平日 9時50分~11時10分
土日 11時10分~14時30分

身近な月について、わかりやすくお話しします。当館のねずみのキャラクター「ちよろすけ」も登場し、一緒に月旅行をします。また、季節の星座や、日本に伝わる月の物語「かぐや姫」も紹介します。



ちよろすけ

* 平日は団体予約がある場合のみ投影があります。

こども天文教室

下記の日程の9:50~のプラネタリウム投影はこども天文教室です。最近の天文の話題やいろいろなテーマについて、天文科学館の学芸員が、小学4年生以上を対象に、わかりやすく解説します。天文について深く楽しく勉強しましょう。



- ・7月20日(土) 「天の川と流れ星の観察」
- ・9月28日(土) 「彗星の観察」

ベビープラネタリウム

乳幼児(0~4歳くらいまで)のお子さんと保護者の方が対象のプラネタリウムです。親子で一緒にプラネタリウムをお楽しみください。

事前申込

● 日程:
・9月7日(土)・20日(金)

10時~ 投影時間約30分

詳しくは当館ホームページをご覧ください。



その他のイベント

●軌道星隊シゴセンジャー夏場所

キッズプラネタリウムにシゴセンジャーとブラック星博士が登場!

事前申込

7月13日(土)~
7月15日(月・祝)11:10~

詳しくは当館ホームページをご確認ください。



●プラネタリウム博覧会

7月20日(土)~9月8日(日)

あなたの知らないプラネタリウムが大集合!世界のプラネタリウム、学校に設置された小型プラネタリウム、天文時計など、プラネタリウムに関する珍しい資料を展示します。プラネタリウム100周年公認企画。



Zeiss planetarium Bochum
画像提供: 松井 瀬奈

特別展

●ときあかせ!辰鼓楼 機械時計の謎

6月8日(土)~7月15日(月・祝)

兵庫県豊岡市出石町にある時計台「辰鼓楼」の謎を解き明かすための調査がスタートしました。時計の歴史をひもときながら、辰鼓楼の謎に迫ってみましょう!



出石町にある時計台「辰鼓楼」

●夏休み・児童生徒作品展

9月14日(土)~10月14日(月・祝)

小・中学生が、夏休みに制作した作品を展示します。



児童作品展2023展示風景

* 小学生の作品は9月14日(土)~9月23日(月・祝)、中学生の作品は9月28日(土)~10月14日(月・祝)の期間で展示します。

Event Calendar

7月	8月	9月
7月2日(火)~7月31日(水) 「夏の星雲・星団めぐり」	8月1日(木)~8月31日(土) 「太陽系グランドツアー」	9月1日(日)~9月29日(日) 「源氏物語と月」
~7月7日(日) 「たなばたアワー」	7月13日(土)~9月1日(日) 「ほしぞらかんさつをしよう」	9月3日(火)~10月31日(木) 「おつきみアワー」
~7月15日(月・祝) 「ときあかせ!辰鼓楼 機械時計の謎」	7月20日(土)~9月8日(日) 「プラネタリウム博覧会」	9月14日(土)~10月14日(月・祝) 「夏休み・児童生徒作品展」
	7月20日(土) 「天の川と流れ星の観察」 【事前申込なし】	9月7日(土) 【事前申込】
	7月27日(土) 【事前申込】	9月28日(土) 「彗星の観察」 【事前申込なし】
	7月13日(土)~7月15日(月・祝)11:10~ 「軌道星隊シゴセンジャー夏場所」【事前申込】	9月7日(土) 【事前申込】
7月6日(土) 「七タナイトミュージアム」 【事前申込】	8月17日(土) 【事前申込】	9月20日(金) 【事前申込】
	8月3日(土) 【事前申込】	9月14日(土) 「お月見ナイトミュージアム」 【事前申込】
	8月24日(土) 【事前申込】	9月21日(土) 【事前申込】
	8月31日(土)【クラブ会員とその家族】 「シゴセンジャーファンクラブイベント」	

休館日のお知らせ

7	8	9																		
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	11	12	13	14	15	16	17	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	18	19	20	21	22	23	24	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	25	26	27	28	29	30	31	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31												29	30					

青文字: 開館
赤文字: 休館

天体観望会の実施日・申し込みについて

- ◆実施日時・申込方法の詳細についてはホームページをご覧ください
- ◆参加費 1人 300円
- ◆駐車場ご利用の場合は別途200円必要です

Information ご利用案内

■プラネタリウム投影開始時刻

	第1回目	第2回目	第3回目	第4回目	第5回目
平日	9:50 <small>団体予約がある時のみ</small>	11:10	13:10	14:30	15:50
土・日・祝 及び 学校長期休業中	9:50	11:10 <small>キッズ プラネタリウム</small>	13:10	14:30 <small>キッズ プラネタリウム</small>	15:50

■休館日

毎週月曜日・第2火曜日・年末年始

ただし、月曜日・第2火曜日が国民の休日・祝日となる日は閉館し、翌日が休館となります。年末年始の営業についてはホームページ等をご覧ください。

※臨時閉館・休館あり(ホームページ等でお知らせします)

■開館時間

午前9時30分より午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

■観覧料

	大人(高校生以下無料)
一般	700円
団体(30人以上100人未満)	630円
団体(100人以上)	560円
年間パスポート	2,000円

※年間パスポートは購入時から1年間、何度でもご利用いただけます。

※高齢者割引、障害者割引を行っています。

※明石市が発行する「シニアいきいきパスポート」提示で観覧料350円(65歳以上)が無料になります。

※コンサートやイベント等には別途料金が必要な場合があります。

■駐車場

普通自動車・マイクロバス(約90台):2時間まで200円(以降1時間ごとに100円)／大型バス(8台):1回1,500円

■施設概要

日本標準時の基準となる東経135度子午線の通過地に建てられた「時と宇宙の博物館」です。プラネタリウムは現役では日本最古、稼働期間も日本一です。

■交通のご案内



- JR明石駅下車 東へ1km(徒歩約15分)
- 山陽電車丸前駅下車 北へ約0.2km(徒歩約3分)
- 車では国道2号線丸前交差点から北へ約0.2km
- 第二神明道路 大蔵谷I.C.から南西へ約3km
- 明石海峡大橋からは垂水出口を左折し、約6kmで国道2号線へ。国道2号線を西へ約4km(約20分)

明石市立天文科学館

<https://www.am12.jp/>
 X(旧ツイッター)@jstm135e
 〒673-0877 兵庫県明石市人丸町2-6
 TEL.078-919-5000/FAX.078-919-6000
 e-mail: otoiwase-tenmon@city.akashi.lg.jp



時間、それは宇宙からの贈りもの

上空2万kmの彼方のGPS衛星で刻まれる10万年に1秒の高精度。
 宇宙とつながり、時を知る。衛星電波クロック「セイコー スペースリンク」シリーズ。

SEIKO

お問い合わせ先:セイコータイムクリエーション株式会社 クロックお客様相談室 0120-315-474 (9:30~17:00 土・日・祝日を除く) <https://www.seiko-stc.co.jp/>

